

あさのちゃんねる

vol.57

2026年 春号
(年4回発行)

特集

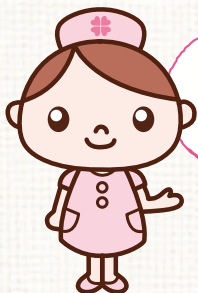
知っておきたい!がん医療 第1回 幅広い選択肢とチーム医療



連携登録医のご紹介

クローバー内科醫院

院長 山形 光慶 先生・副院長 船崎 友馨 先生



はしかが
増加しています。
予防接種歴の
ご確認を!

病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

- 【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。
- 【救急医療】断らない救急医療を目指します。
- 【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。
- 【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全・安心で質の高い医療の提供に努めます。
- 【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。



特集

知っておきたい!がん医療

第1回 幅広い選択肢とチーム医療

がんの治療技術が大きく進化する今、患者さんの病状や生活環境、価値観に合わせて、オーダーメイドのがん医療を提供する時代になりました。「あさのちゃんねる」では数回に分けて、がん医療について特集します。

第1回は、外科部長である中野 達夫医師が治療の選択肢やチーム医療などについて解説します。

先進的な医療機器を備え、 治療の選択肢が多い

日本の死因第1位であるがん。「がんに負けない社会」をつくるため、患者さんと医療従事者、そして自治体と医療機関が一体となったがん対策が必要です。当院は石川県地域がん診療連携推進病院に指定されており、地域の医療機関と連携しながら質の高いがん医療の提供に取り組んでいます。

診断と治療の精度を上げるために、当院ではこれまで先進的な医療機器を積極的に導入してきました。画像診断分野において2005年に石川県初とな

るPET-CTを導入、2006年には北陸初の3テスラMRI、2012年には金沢市内初の320列CTを導入するなど先進的な設備整備を進めるとともに、放射線治療分野では1997年に北信越初となるガンマナイフを導入、2004年には全身対応のリニアックであるノバリス(日本第1号機)を導入、さらに2024年からはVersaHDの稼動を開始しています。ガンマナイフとリニアックを患者さんの疾患に応じて使い分けることで、一人ひとりに最適な放射線治療が可能です。

がんの治療法は「手術」「化学療法(薬物療法)」「放射線治療」が3本柱であり、現在はこれらを組み合わ

せた集学的医療が基本になっています。外科手術は、現在4名の外科医が執刀しており、2025年には手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入し、より低侵襲な手術を実現しています。また、温熱療法装置と高気圧酸素治療装置(2022年導入)を備えていることも当院の特長です。高周波電流で患部を加温し、がん組織のみを壊死・縮小させる温熱療法。高気圧な空間で高濃度の酸素を吸入することで、病態の改善を図る高気圧酸素治療。いずれも標準治療ではありませんが、保険適応内で、がんに対して有効な治療法であり、化学療法や放射線治療と併用することで治療効果を高められます。副作用が極めて少なく、他に治療法がないと言われた患者さんにも有効な選択肢になっています。

医療者と患者さんが対話し、 ベストな治療を選ぶ時代に

患者さんに寄り添ったがん医療を行う上で、チーム医療は不可欠です。当院では医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、社会福祉士による医療チームが多角的な視点で患者さんを観察・評価し、質の高い治療を提供しています。近年、がん医療の現場ではシェアード・ディシジョン・メイキング(SDM: 共有意思決定)という手法が主流になっており、当院でもこのプロセスを大切にしています。これは医療従事者と患者さんが協力して治療法を選択していく手法で、単なる同意とは異なり、対話を通じて納得できる治療を選択していきます。価値観や生活環境は患者さんによって異なるため、「こんな治療がしたい」「治療をしながらこんな生活がしたい」といった意見を伺い、最適な治療法が選択できればと考えています。がんの痛みなどさまざまな症状をやわらげる緩和ケアの専門チームもあり、入院患者さんだけでなく、外来の患者さんもサポートしています。緩和ケアは終末期の患者さんだけでなく、早期から治療と並行することで、治療効果と生活の質を高められます。例えば、乳がんと診断された女性の場合、女性の看護師が共感しながらケアをすることで、心の支えになることができます。

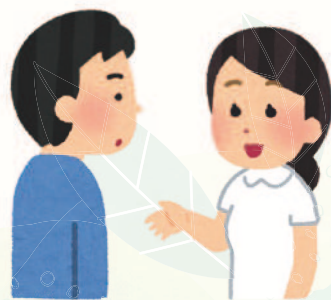
がんになった時、病状のこと、家族のこと、お金の

ことなど、さまざまな悩みを抱え込んでしまうことは少なくありません。そんな時、相談窓口になるのが、がん相談支援センターです。専門のスタッフが高額療養費制度の申請方法や医療費の助成制度、仕事との両立などさまざまな相談にアドバイスをしています。同センターはがんサロンを開催し、患者さんが気持ちを分かち合う拠点にもなっていますので、お気軽にご参加ください。

地域のドクターと連携し、 症例検討会を開催

地域の医療機関や住民と情報を共有することで、がんを知り、ともに乗り越えていくための活動もしています。年に4回、地域の医師を招いて症例検討会を実施し、クリニックから紹介された症例についてともに検討・報告しています。また、地域住民のみなさんを対象にした出前講演も実施しています。がん治療だけでなく、高血圧、糖尿病、そけいヘルニア、てんかん、薬剤、感染対策など幅広いテーマで講師が地域に出向いてお話をしています。ホームページから講演依頼も受けつけていますので、ご興味のある方はぜひ広報室までお問い合わせください。

がん治療がめざましく進歩する中、先進的な医療機器を多数備える当院では、標準治療はもちろん、新しい治療法を選択肢として提供できることが大きな特色であり、使命だとも考えています。そして、私たち医療チームにできることは、患者さんとまっすぐ向き合うこと。当院の医療チームは若手の医師を中心に切磋琢磨し、患者さんとの対話を大事にしながら、オーダーメイドの医療に取り組んでいます。患者さん本人と家族が納得し、その人らしい治療法を選択できるよう、一緒に考えていきましょう。



「人は血管と共に老いる」という事実。

健診で守る、あなたの明日。

健康診断(以下健診)を受ける理由を問われると、病気(特にがん)を早くに見つけるためとお考えの方も多いのではないかと思えます。確かに無症状のうちに検査を受けることで、早期のがんが見つかり、最近ではより身体への負担が小さい内視鏡や手術支援ロボット等での治療も可能になりました。少し進行したがんでも、従来の抗がん剤に加えて、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の登場により、目を見張る改善が得られています。がんに対しては、まずはきちんと健診を受けて、見つけ出すことが大切になります。

では、がんだけが命に関わる病気なのでしょうか?2024年の統計によれば、日本人の死因のトップはがん(悪性新生物)ですが、その割合は23.9%に留まり、2位の心臓疾患(14.1%)、3位の老衰(12.9%)、4位の脳卒中(脳血管障害)(6.4%)がこれに続きます。がんに次いで、心臓や脳が原因の死因もかなりの割合となりますが、その背景には「動脈硬化」が潜んでいます。動脈硬化を簡単に言えば、心臓から全身に血液を送り届ける動脈が劣化することです。動脈を含む、あらゆる管(ビニールホース、水道やガス管、工場の金属配管など)の劣化によるトラブルは、詰まるか、切れるかの2種類しかありません。脳で動脈が詰まれば脳梗塞、切れば脳出血、心臓で詰まれば心筋梗塞、足の血管が詰まれば切断が必要になる壊疽^{えそ}がそれです。昨今問題となっている、水道管の劣化(破断すれば道路上での大噴水、詰まれば断水)と同じです。

それでは何が人間の動脈を劣化させるのでしょうか?老化を除くと、主な悪役は、高血圧、コレステロール高値、血糖高値、喫煙です。これらは、金沢市の「すこやか健診」でもきちんとチェックされている基本的な項目です。旧厚生省は、「成人病」から「生活習慣病」へと呼称を変更しましたが、これらが食事や運動など個々人の生活習慣に深く根ざしているためです。生活習慣とは「癖」とも換言できるかと思えます。何十年もの間に培われた癖は、一朝一夕に変えることは難しいことですが、私たちは健診を契機に少しでも生活習慣を修正していただく「行動の変容」を大きな目的にしています。例えば、日々の減塩や、毎日5,000歩あるくなどは決して難しいものではありません。満点ではなくとも、はじめは10点でも良いと思います。少しずつ生活習慣を修正していただき、動脈の劣化によって心臓や脳などで起こる重大な病気の予防の一助に健診がなればと考えています。

せっかく時間とお金を費やして受けた健診を活かさない手はありません。健診は受けることも大切ですが、その結果を活かすことはもっと大切です。個々の異常値への対策は健診の際にご説明したいと思いますので、その際にご遠慮なくご質問下さい。

100年以上も前のカナダ人内科医 ウィリアム オスラー先生(William Osler, 1849-1919)の名言「人は血管と共に老いる。たいていの人は、剣によるよりも、飲みすぎ、食いすぎによって殺される。」は今でも輝きを失ってはいません。

健診センター長 善田 貴裕



健診センターだより 見逃さない小さなサイン「膵臓がんドック」

すいぞう
膵臓



膵臓がんは「沈黙のがん」とも呼ばれ、初期にはほとんど自覚症状が現れないことが特徴です。気づいたときには進行しているケースも少なくなく、**早期発見が難しいがんの一つ**です。しかし、まったくサインがないわけではありません。日常の中に潜む“小さな変化”に目を向けることが、早期発見への第一歩となります。

例えば、「**最近なんとなく食欲がない**」「**体重が減ってきた**」「**背中やみぞおちの違和感が続く**」「**糖尿病が急に悪化した**」といった症状は、見過ごされがちですが重要なサインである可能性があります。また、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）や尿の色が濃くなるといった変化も注意が必要です。

こうした変化をきっかけに受診される方もいらっしゃいますが、症状が出る前に発見することが理想です。そのために有効なのが「膵臓がんドック」です。当院では、腹部エコーやMRIなどの画像検査を組み合わせることで、膵臓の状態をより詳しく確認することが可能です。特に膵臓は体の奥に位置しているため、通常の検査では見えにくい臓器ですが、専門的な検査により小さな異常も見逃さないよう努めています。

また、家族に膵臓がんの既往がある方、喫煙歴のある方、慢性膵炎や糖尿病のある方はリスクが高いとされており、定期的なチェックが推奨されます。「まだ大丈夫」と思っているうちに進行してしまうこともあるため、症状の有無にかかわらず、一度検査を検討してみることが大切です。

膵臓がんの早期発見は決して簡単ではありません。しかし、小さなサインに気づき、適切な検査につなげることで、その可能性を高めることができます。ご自身の体の変化に耳を傾け、気になることがあればお気軽にご相談ください。当院では、皆さまの健康を守るため、膵臓がんの早期発見に力を入れて取り組んでいます。



検査内容	腫瘍マーカー（血液検査）、腹部超音波検査、腹部MRI（MRCP）検査
料 金	¥48,950（税込）

お問い合わせ・ご予約

浅ノ川総合病院 健診センター

TEL:076-203-8050 受付時間:平日9:30~16:00

「膵臓がんドック（すいぞうがんドック）希望」とお伝えください。

令和7年度救急症例検討会

～116名が参加、活発な意見交換を通じて地域の救急医療体制をさらに強化～

令和8年2月18日(水)、当院にて「令和7年度救急症例検討会」を開催いたしました。

地域の救命を担う救急隊の皆様と当院スタッフが、実際の搬送症例を振り返り、臨床的知見を共有することで、地域の救急搬送体制のさらなる質向上を目指す重要な取り組みです。

今年度も会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式を採用しました。その結果、金沢市消防局をはじめとする近隣の各消防本部から69名の救急隊員にご参加いただき、当院職員等を含め総勢116名が参集する大変盛況な会となりました。

■日 時 令和8年2月18日(水)

■開催形式 ハイブリッド形式

会場：浅ノ川総合病院 本館3階 講義室

オンライン：ZOOM

■参加対象 救急隊員、病院職員

■参加人数 116名(救急隊員69名、病院職員47名)

■開催内容 ▶症例検討

症例検討では、救急隊による現場での観察がいかに正確な診断と迅速な治療に寄与するかが、多角的な視点から議論されました。

◎症例① アナフィラキシー疑いで救急搬送された一例

熱中症が疑われる状況下で、詳細な全身観察から腹部の発疹を発見し、的確な判断に至った症例。病院側からは、アレルギー反応に伴う重篤な循環動態の悪化(コーニス症候群)に関する専門的な知見が共有されました。

◎症例② 急病と一般負傷の判別に苦慮した一例

転倒による外傷が疑われた高齢患者に対し、現場で軽微な麻痺を察知し、脳卒中も視野に入れた搬送が行われました。精査により正常圧水頭症等の複雑な病態が判明し、現場での身体所見が迅速な治療開始を助ける重要性が再認識されました。

▶小勉強会

演題：頭部外傷患者の初期対応と観察ポイント

講師：副病院長 兼 脳神経外科部長 光田 幸彦

受傷直後は軽症に見えても急変するリスクや、高齢者における慎重な頸椎保護の重要性が強調され、今後の救急活動に直結する実践的な学びの場となりました。

▶情報交換会

救急隊と病院スタッフによる活発な意見交換が行われました。独居高齢者の緊急連絡先の確保に関する現場の工夫や病院側の苦慮が共有されたほか、受入要請時に「皮疹や麻痺などの所見が事前に伝わると、受入準備が劇的に早まる」といった双方のニーズの理解が進みました。現場と病院が苦労や判断基準を開示し合うことで、実務的な連携が大きく深化しました。



事後アンケートでは、症例検討や小勉強会に対して「とても参考になった」「参考になった」との回答が大多数を占めました。参加者からは「病態の決めつけをせず、全身観察の重要性を再認識した」「医療機関側から何を診て欲しいのか等の明確な情報を求められ、連携の参考になる」といった前向きなご意見を多数いただいております。

当院は今後も、救急隊の皆様との「顔の見える関係」、そして「思いを伝え合える実務的な連携」を一層推進し、地域の皆様へより質の高い救急医療を提供できるよう努めてまいります。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

連携登録医のご紹介



院長 山形 光慶 先生(写真右)
副院長 船崎 友馨 先生(写真左)

今回は、金沢市もりの里1丁目の

『クローバー内科醫院』を紹介いたします。

内田マタニティクリニックがあった場所にご縁をいただき、2025年9月、金沢市もりの里に「クローバー内科醫院」を開院いたしました。当院は、消化器内科を専門とする院長と、糖尿病・内分泌代謝内科を専門とする副院長・船崎友馨の2名体制で、それぞれの専門性を活かした診療を行っております。内視鏡検査の機会を逃し、進行した状態で発見される患者さんを多く経験してきました。そのため、安心して胃カメラ・大腸カメラを受けて頂ける環境づくりに特に力を入れています。また、副院長は糖尿病や生活習慣病の予防・改善に注力しており、互いの志を共有しながら診療にあたっています。当院では、内視鏡検査をはじめ、生活習慣病の管理、健康診断、訪問診療など幅広く対応しております。地域の皆さまにとって気軽に相談でき、安心して通っていただけるクリニックを目指し、日々精進してまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



クリニック外観

連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

クローバー内科醫院

診療科：内科、呼吸器科、消化器科、肝臓科、内視鏡科、内分泌科
山形 光慶 (写真右)

経歴：2015年関西医科大学 医学部医学科 卒業
京都市立大学 初期臨床研修

2017年金沢医科大学 肝胆膵内科学 入局
2022年金沢医科大学 肝胆膵内科学 助教

資格：医学博士

日本内科学会 認定内科医

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

日本膵臓学会 会員

日本胆道学会 会員

船崎 友馨 (写真左)

経歴：2016年金沢医科大学医学部医学科卒業
富山市民病院 初期臨床研修

2017年金沢大学附属病院 初期臨床研修

2018年金沢大学附属病院 内分泌代謝内科 入局

2019年福井県済生会病院 内分泌代謝内科

2020年金沢大学附属病院 内分泌代謝内科

2021年金沢赤十字病院 糖尿病内分泌内科

2022年公立松任石川中央病院 糖尿病内分泌内科

2023年富山県立中央病院 内分泌代謝内科

資格：日本内科学会 内科専門医

日本糖尿病学会 専門医

内分泌代謝・糖尿病内科専門医

日本産業衛生学会 認定産業医

日本肥満学会 会員

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	/	○	○	○	○	/
14:00~18:00	○	/	○	○	○	/	/
13:30~16:00	/	/	/	/	/	○	/

休診日：火曜日、日曜日、祝日

住所：〒920-1167 金沢市もりの里1-212

電話：076-204-9681

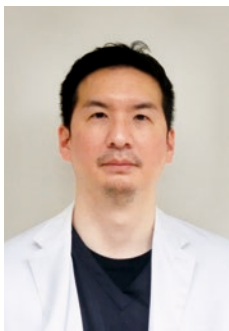
駐車場：あり

アクセス：北鉄バス 若松西バス停 徒歩6分



新任医師紹介

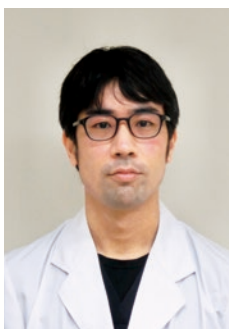
今年4月に赴任された
医師を紹介します!



腎臓内科 野村 和利

地域医療に貢献できるよう、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心と信頼のある診療を行ってまいります。よろしくお願いいたします。

専門分野／腎臓領域・透析



形成外科 田中 和

地域の皆様のお役に立てるよう、日々努力してまいります。よろしくお願いいたします。

専門分野／形成外科



眼科 風間 弘毅

はじめまして、眼科の風間です。皆様のお役に立てるように頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

専門分野／眼科一般



内科 石毛 陽子

患者さん一人ひとりに寄り添った、丁寧な診療ができるように心がけていきます。よろしくお願いいたします。

専門分野／呼吸器内科



腎臓内科 新里 康太

専門は腎臓・透析ですが、いち内科医として全身を診れるよう精進いたします。よろしくお願いいたします。

専門分野／腎臓領域・透析



耳鼻咽喉科 岡野 恵一郎

地域の皆様の健やかな生活を支えるため、誠心誠意診療し、耳・鼻・喉の健康を守ります。

専門分野／甲状腺腫瘍・頭頸部癌・耳鼻咽喉科一般



脳神経外科 久志野 翔

的確な診療ができるように心がけます。当院には、てんかんセンターやガンナイフなど他にはない設備もあり、勉強して還元していきたいです。よろしくお願いいたします。

専門分野／脳神経外科

お知らせ

✿ 創立記念日休診のお知らせ

2026年6月1日(月)は創立記念日につき、外来診療を休診いたします。
(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL:076-252-2101 (代) URL:<https://www.asanogawa-gh.or.jp/>
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp



浅ノ川総合病院
公式サイト



X(旧 Twitter)



Instagram